

2018年9月12日付 第20面に掲載されました

# キャリア教育「量より質」

キャリア教育のうち、働くイメージを培うプログラムについて、受けた教員も準備や振り返りといった取り組みで効果に差が出るとのアンケート結果を、大阪の調査会社などがまとめた。普段の授業や課外活動でも、仕事に就くときに役立つ力を伸ばせることも分かった。(加屋宙磨)

## 大阪の調査会社がまとめ

「応用社会心理学研究」(大阪市中央区)「職場体験」や「適性診断」などの受けたと調査した。結果を受け、「やりた2017年2〜7月、い仕事イメージでき全国の高校18校(4679人)を対象に、キャリア教育の効果について分析した。

## 高校生の職場体験など

このうち「職業調べ」では、活動前の目的の確認や活動後の振り返りを行なった「グループは、「自分に合った仕事が見つかる」と肯定的に捉えた割合が半数を超えた。一方、「役に立たない」「グループを」「プログラムを」「ともに3割余りに」ともなっていた。ほかの項目でも同様

「このうち「職業調べ」では、活動前の目的の確認や活動後の振り返りを行なった「グループは、「自分に合った仕事が見つかる」と肯定的に捉えた割合が半数を超えた。一方、「役に立たない」「グループを」「プログラムを」「ともに3割余りに」ともなっていた。ほかの項目でも同様

## 準備や振り返り大切

中央教育審議会答申では、キャリア教育で育む基本的な力について、人間関係形成・社会形成能力▽自己理解・自己管理能力▽課題対応能力▽キャリアプランニング(人生設計)能力の4能力に整理。教育活動全般でどういった能力を伸ばせるのか再認識することが求められている。